

福祉教育のすすめ

はじめに

『現場で使える福祉教育のすすめ』は、平成23年度から検討・協議を重ねてきた「志民の学び縁卓会議」（福祉教育推進に関する調査研究事業）による県内における「福祉教育の取り組みに関する調査報告書」（平成24年度）及び「福祉教育の取り組みに関する調査分析結果報告書」（平成25年度）の結果を受け、今後の福祉教育の推進に活用していただくことを目的として作成しました。

構成は、Ⅰ「調査結果からの示唆」、Ⅱ「福祉教育実践事例」、資料編「（試案）心のバリアフリーを実現するためのレクリエーション作りブックレット」、「問合せ一覧」となっています。

Ⅰ「調査結果からの示唆」では、福祉教育の取り組みに関する調査報告書」と「福祉教育の取り組みに関する調査分析結果報告書」の二つの報告書から示された、課題と改善への方策の概要を掲載しました。

Ⅱ「福祉教育実践事例」は、県内の学校や地域で取り組まれている福祉教育の取り組みについて、実際にこれを推進してきた方々に準備段階から展開、ふりかえりや評価など、実施した学びの経過を踏まえて整理していただきました。取り組みのねらいや方法、内容、成果、課題、連携などを提示し、他の学校や地域で活用していただけるよう、「志民の学び縁卓会議」からのコメントをつけていますので、ご活用ください。

資料編「（試案）心のバリアフリーを実現するためのレクリエーション作りブックレット」は、特定非営利活動法人IFP（Inclusive Fellowship Promotion）が開発・実践した成果をもとにまとめたものです。障害者理解だけでなく多様性を許容する社会の実現をめざす学習に活用していただく資料として掲載しました。

その他資料として、県内の社会福祉協議会の連絡先を掲載しました。

これらの情報を活用して、福祉社会の実現をめざす学びを推進していただければ幸いです。

平成26年3月

志民の学び縁卓会議
池田 幸也
（常磐大学 教授）



目 次



■福祉教育のすすめ

はじめに

I 福祉教育をすすめるために	1
----------------	---

■実践事例

1 老若男女・だれもが参加できる夏休みボランティア体験講座（ひたちなか市）	3
2 地域の福祉施設や養護施設における体験学習（茨城町）	5
3 高校生の「イドパタカイギLunch Club」から生まれた フィリピン・ボランティア（取手市）	7
4 地域で福祉の心をはぐくむ子どもヘルパー事業（守谷市）	9
5 おみたま子どもヘルパー派遣事業（小美玉市）	11
6 思いを伝える「元気っ子あそび会」でふるさと思い出づくり（城里町）	13
7 水戸特別支援学校PTAボランティアスクール（水戸市）	15
8 実社会で実践 礼儀・マナー 部活動単位で参加する 夏休みボランティア体験（那珂市）	17
9 森でイキイキ創造力アップ！（常陸大宮市）	19

福祉教育のすすめ

めまの育輝お話

I 福祉教育をすすめるために

子どもたちの「生きる力」を育むには、学校と地域が連携した体験や交流を深める機会が必要です。広義の福祉教育はあらゆる人の幸せをめざす取り組みとして大きな意義をもっています。また、高齢者や障害者理解、乳幼児との交流などの狭義の福祉教育もその目的はすべての人々の社会的幸福の実現を考えることにほかなりません。

ここでは「福祉教育の取り組みに関する調査報告書」（平成24年度）及び「福祉教育の取り組みに関する調査分析結果報告書」（平成25年度）の結果をもとに、県内における福祉教育の現状と課題について述べていきます。

1 こどもたちに学んでほしいこと

県内の小中高校・特別支援学校の先生方からの回答の結果、福祉教育をとおして子どもたちに学んでほしいことの順位は次のようになりました。

第1位 思いやりの心を育む

第2位 相手の立場や個性を大切にすること

第3位 高齢者や障害のある方の理解

ただし、特別支援学校では第1位と第2位は同じ割合で、第3位は「身近な地域に関心を持つこと」となっています。

ここに掲げられた事柄をいかに実現するかについて以下で考えていきます。

2 いつ福祉教育に取り組んでいるか

各学校で福祉教育に取り組んでいる場面は、回答の結果次の<表1>のようになりました。

<表1>福祉教育に取り組んでいる場面

校種	第1位	第2位
小学校	総合的な学習の時間（87.7%）	児童会・生徒会活動（78.0%）
中学校	児童会・生徒会活動（85.9%）	総合的な学習の時間（66.8%）
高等学校	児童会・生徒会活動（58.2%）	クラブ・部活動（58.2%）
特別支援学校	児童会・生徒会活動（88.2%）	総合的な学習の時間および学校行事（58.8%）

（「福祉教育の取り組みに関する調査報告書」平成24年度）

福祉教育に取り組んでいる学校の場면을第1位と第2位で比較すると、小学校では「総合的な学習の時間（87.7%）」、「児童会・生徒会活動（78.0%）」、中学校では「児童会・生徒会活動（85.9%）」、「総合的な学習の時間（66.8%）」の順となっており、ちょうど入れ替わっています。総合的な学習の時間は時間割に位置づけられた場面ですが、児童会・生徒会活動は課外の活動である点が異なります。中学校段階から時間の確保が難しいことがうかがえます。高等学校をみるとこの傾向はさらに強くなり、第1位の「児童・生徒会活動（58.2%）」に続き「クラブ・部活動（58.2%）」が挙げられ、選択した希望者による取り組みという傾向がみられます。また、特別支援学校においては初等部から高等部までであることや個別のニーズに応じた教育を行うことなどから、小中高の結果を合わせた場面での取り組みがうかがえます。

3 学校で福祉教育に取り組む上での3つの課題

調査では福祉教育の取り組む際の課題や地域と連携する際の課題を聞きました。その結果をまとめると、次の3つの課題のあることがわかりました。

3つの課題	
第1位	時間がない
第2位	情報がない
第3位	予算がない

第1位の「時間がない」には二つの意味があります。一つは学校で取り組む授業やその他の時間確保が難しいということです。さらに二つめは取り組む際の事前の関係者との打ち合わせの時間の確保が難しいという点です。

社会福祉協議会（社協）をはじめ地域の方々が学校での取り組みを模索する際には、これらの点を配慮して限られた時間を有効に活用して取り組むことが必要です。

第2位の「情報がほしい」には、地域での協力者や協力団体の情報から福祉教育の教材・教具・方法など多岐にわたります。ここでは、何よりも社協の存在と役割を知ってもらえる取り組みが必要とされています。

第3位の予算には、学校で行う活動への協力者への謝礼や交通費などの予算が必要であるということです。さらに、校外で取り組む活動によっては、子どもたちの活動費用が必要となる場合も考えられます。このような必要不可欠な資金の確保は、社協の支援はもちろんですが、教育経営の面から制度的に確保できる仕組みづくりが必要な部分です。

このように第1位から第3位の「時間」「情報」「予算」の3つの「ない」は、福祉教育を進めるうえでなくてはならない「ほしい」ものとして3つの確保をいかに実現していくかを関係機関が連携して具現化していく必要があります。

4 福祉教育の効果をあげるために

福祉教育の効果をあげるためには次の4つが大切です。

第1には子どもたちの主体性を生かした調べ学習などの事前の学習が大切です。第2には、地域の人々との交流を深める機会を設けることです。第3には子どもの発達段階に応じて事前学習と地域での交流を交えて、技術・技能・知識の習得を組み合わせることです。さらに、中学校から高等学校では、福祉施設などでの職業体験を兼ねて、福祉サービスの利用者や当事者、福祉の仕事の担い手に出会うことも重要です。特別支援学校ではこれらの視点に加えて、子どもたちの個々の状況を踏まえた職業や社会的役割の理解を促す体験の機会を確保することが大切です。

第4には、学校と地域の連携が欠かせません。この点で市町村の社会福祉協議会の役割は大きく、社協が学校の現状や課題を受けとめ、福祉教育推進の課題である「時間」「情報」「資金」の支援をいかに行うかを実情に応じて工夫していくことが肝要です。

志民の学び縁卓会議 池田幸也（常磐大学 教授）

实践事例

附 專 題 實

◆分野：まちづくり ◆対象：小・中・高・青少年・住民・その他 ◆実施主体：社協・VG・NPO・他

No. 1

老若男女・だれもが参加できる 夏休みボランティア体験講座

～ 最近のトレンドは小学校中学年低学年の親子参加！ ～
<ふれあい隊養成講座・2013>

実施団体

NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび	×	ひたちなか市・市民活動課
〒312-0032 茨城県ひたちなか市津田2031-797		〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川2-10-1
Tel：029-273-8897		Tel：029-273-0111（市役所代表）
メール komorebi@support.email.ne.jp		

【作成：2014年3月】

☆ キーワード（であう・ふれあう・つながる おまけに・・・たのしむ）

<1> ねらい

- ① 自分の暮らす《まち》を知り、まちの魅力や課題を見つけてみよう！
- ② 様々な年齢の人と出会うことで、《出会い》の楽しさや優しさを感じてみよう！
- ③ 一人ではできないこともみんなと一緒に挑戦すればできることを体験しよう！

<2> 学びの特徴

- * 出会いの場と仲間づくり
開校式や体験報告会、体験先などでの出会い体験
- * 市役所探検・・・まちを知る
結成したてのチームで楽しく市役所取材
- * ボランティア体験活動
市内の各所で自分で選んだ体験先で活動実施

<3> 成果・効果

- 1 親子であるいは友達と一緒に参加することで同じ発見や楽しさを分かち合うことができた。
- 2 市内の様々な団体の協力により、子供たちの興味や関心に応じたテーマ別の体験ができた。
- 3 ボランティア体験を通して、高齢者や障がいのある方とのふれあいができた。
- 4 子育て、まちづくりなどのテーマや、市役所探検等の活動を通して、自分たちの暮らすまちの魅力や、こうなったらいいな、と感じる課題を発見することができた。
- 5 ひととの出会いやこころのふれあいを、いろいろな場面で感じる事ができた。

<4> 今後の課題

- * 毎年継続して参加する子供たちが増えてきており、日常的な活動につながればと考えている。
- * 《参加したい》と思う企画と広報活動がポイント。協力者を増やししながら、魅力ある活動内容を考えていきたい。

<5> 活動収支

ひたちなか市市民活動課からの委託経費内で実施している。参加費無料。

<6> 担当者からのメッセージ

参加してよかった！！との声が多く、毎年リピーターが増えています。下は2歳、上は70代の方が参加。世代を超えた活動でたくさんの笑顔が生まれます。

◇福祉教育 準備からふりかえりまで◇

去年の担当者と打合せして何から始めたらいいかを考えた。

アイディアはいいけど
ホントにできるか不安

市内各所の協力ありがたい！
今回は、子どもをメインのターゲットに設定。子どもたちが「そーだったんだ！」と感じる企画は・・・悪戦苦闘。大学生の協力ありがたかったなあ

今年の夏は暑かった！

《参加者の声・感想》

○おじいさん、おばあさんと話ができてよかったです。(小1) ○ずっとやっていたら楽しくて自然に笑えるようになりました。(小4 お店体験) ○メンバーはみんなしょうがいしゃなのに、なんのしょうがいかわからないほどみんなげんきだった(小4) ○市役所探検が楽しかった(小4) ○子供から大人までバラバラのグループ作りが楽しかったです(母) ○来年もまた行きたいです(小3) ○こどもが楽しそうで安心しました(母) ○たくさんのボランティアありがとう(協力団体より)

泣いてる子を見てもらい泣き！
来年はもっとがんばる！

連携団体 や キーパーソン

12箇所の活動受入れ団体 各団体の代表者
市役所市民活動課 課長さん・担当者

5月14日 夜 はじめの一步！

↓ コーディネーター池田先生と初打ち合わせ
↓ ・企画を検討するための日程調整実施

5月28日 夜 第1回打合せ

↓ 市役所担当者を交えての打合せ
↓ 市役所探検を組み合わせるアイディアが。

6月20日 夜 第2回打合せ

↓ 広報手段検討。市から教育委員会へもお願い。

7月24日 直前準備

↓ 夏休み開始と同時に
↓ 申し込みが増加
↓ 活動先依頼・・・ことしもよろしく！！
↓ 開校式と市役所探検の打合せ(指令づくり)

参加者をどう集めよう…

8月6日 夏やすみ体験講座開始

↓ 開校式とオリエンテーション・交流
↓ 活動希望先の受付・日程調整の実施

⑥ 活動開始 8月中(重複体験可)

箇所の活動先へ

活動先一覧	体験の内容	〔参加人数〕
・こもれび	障がい者とのふれあい	[5人]
・心の和	障がい者とのふれあい	[4人]
・さわの森	高齢者とのふれあい	[5人]
・北勝園	高齢者とのふれあい	[9人]
・きんもくせい	高齢者とのふれあい	[1人]
・くらし協同館なかよし		[9人]
・おらが湊鐵道応援団		[17人]
・国際交流ひろば		[2人]
・なごみ&ポレポレ		[10人]
・市民交流センターひたちなか・ま		[1人]
・子育て なかよしクラブ		[1人]
・スピニング・フープス・レボリューション		[4人]

⑦ 8月31日 ふりかえりと修了書の授与

オープニングステージ

↓ 体験報告会
↓ 大学生ボラが演出

夏休みの最終日は
宿題大変かな？

⑧ その後

↓ 継続ボランティアの調整
↓ 3月15日 車イスバスケット体験会

◆分野:福祉 ◆対象:小学生・高齢者他 ◆実施主体:小学校・社協

No. 2

地域の福祉施設や養護施設における体験学習

～総合的な学習の時間：4年「みんなにやさしい町をつくろう」の学習を通して～

実施団体

茨城町立駒場小学校

〒311-3132 東茨城郡茨城町駒場450
Tel: 029-292-0315
メール: komaba-i@educet.plala.or.jp

×

茨城町社会福祉協議会

〒311-3131 東茨城郡茨城町小堤1037-1
Tel: 029-292-7141
メール: i-shakyo@bb.wakwak.com

【文責:駒場小・瀬谷 純 /作成:2014年3月】

☆ キーワード (地域福祉・総合的な学習・施設体験)

<1> ねらい

- ① 福祉に携わる人や高齢者、ハンディキャップをもつ方々とふれあう中で、福祉面から見た社会の問題点を発見する。
- ② 自分にもできるボランティアを見つけ、実践計画をたてる。
- ③ 実践を通して新たに発見した問題点について考え、改善点を考えながら活動する。

<2> 学びの特徴

- * 本校から歩いていける距離に、茨城町総合福祉センター「ゆうゆう館」や特別養護老人ホーム「みどりの杜」があり、福祉の体験がしやすい環境にある。
- * 実際に車イスに乗る人と押す人、またアイマスクをする人と介護をする人の両方の立場を経験することで、介助される方と介助する方のどちらの気持ちも分かる。



<3> 成果・効果

- 1 児童は、さまざまな体験を直接行うことで、視野を広げることができた。
- 2 介護される側と介護する側の両方を体験することができ、双方の立場から相手の気持ちを考えることができた。それらの体験をもとに、それぞれ課題を見つけることができた。次はこんな体験がしたいという計画を立てることができた。
- 3 自分が「人のために役に立ちたい」「人を喜ばせたい」という心を育てることができた。

<4> 今後の課題

- * 経験したことを生かし、さらに「みんなにやさしい町」をつくるために社会の中で自分が出来ることは何かを考え、実生活に生かしていけるような取り組みにつなげていきたい。
- * 福祉施設や老人養護施設と活動内容を検討するなど、連携の仕方を工夫する。

<5> 活動収支

- * 福祉教育協力学区指定事業(県社協指定)の一環として、助成費(年間20万円)の一部を活用

<6> 担当者からのメッセージ

児童が実際に体験を通して得られることは、とても多かったです。体験をして分かったことをもとに、次は何をしようか、どんなことができるのかを考えることができました。それが、子どもたちの今後の生活に生きていくと思います。

シーツの交換

「シーツがしわになるとお年寄りの体に床ずれができるんだよ」うかがい、真剣に取り組むことができました。

児童の声（ベットに寝ている人を起こす）

始めに足を曲げて、手をお腹にのせます。それから首の後ろに手を入れてクルンと回します。友達を起こすのは難しかったです。

児童の声（アイマスク）

アイマスクをしている人にあまり声がかけれませんでした。

アイマスクをして階段を上ったり下りたりするのは怖かったです。

児童の声（車イス）

スロープで車イスを押すのは大変でした。いきなり車イスを動かされてびっくりしました。

今まで体験したことをもう一度やってみようか。

何か新しい体験ができないかな。どんなことができるか、本やインターネットでもさがしてみよう。

【体験学習をおこなった感想】

2回目の体験は、与えられた活動ではなく、自分たちで考えた活動をしたので、より一層の満足感を得ることができました。違う場所に行った友だち同士が発表を聞きあったり保護者に伝えたりすることで、自分たちの活動を振り返ることができたので、とてもよかったです。

連携団体 や キーパーソン

町総合福祉センター「ゆうゆう館」、特別養護老人ホーム「みどりの杜」、町内小・中学校、地区社協、町内ボランティアグループ、他

◇福祉教育 準備からふりかえりまで◇

6月5日 特別養護老人ホーム
「みどりの杜」へ行き、打ち合わせ

6月12日 「みどりの杜」で体験学習
・シーツの交換
・目隠しをしての車イス体験
・ベットに寝ている人を起こす体験



6月17日 茨城町総合福祉センター
「ゆうゆう館」へ打ち合わせ

6月26日 「ゆうゆう館」で体験学習
・アイマスク体験
・車イス体験
・「ゆうゆう館」の見学
(デイサービス、車イスで入れるお風呂、生活訓練所)

9月～10月 学校で
1学期に体験したことをもとにして、自分がかもっと体験したいことを企画書に書き「ゆうゆう館」「みどりの杜」に持って行こう。

11月19日
児童の作った企画書をもって打ち合わせ

11月21日 第2回目の体験学習
「ゆうゆう館」か「みどりの杜」
(児童が企画書を書いた場所に行く。)
「ゆうゆう館」 車イスとアイマスク体験を外やエレベーターで行う。
「みどりの杜」 お年寄りとできそうな遊びを考えてふれ合いを楽しむ。

12月～2月 学校で
体験したことをもとに、新聞やポスターを作成する。

3月
授業参観で、自分が体験したことや考えたことを発表する。

志民の学び縁卓会議からのコメント

- ☆ 地域の施設における体験学習は、福祉の大切さを身近に感じ、思いやりの心を育む力にもなります。
- ☆ 施設入居のお年寄りは、子どもたちと会えるのを楽しみにしています。今後も活動を継続して下さい。
- ☆ 子どもたちの福祉教育の取り組みが、「みんなにやさしい町づくり」の大きな力になることを期待します。

◆分野：国際 ◆対象：高校生・住民 ◆実施主体：高校・NPO

No. 3

高校生の「イドバタカイギ Lunch Club」から生まれたフィリピン・ボランティア

～ 高校生がつくる巨大台風の被災地支援 ～

<Idobatakaigi Lunch Club2013>

実施団体

茨城県立取手第一高等学校

〒302-0013 茨城県取手市台宿2-4-1

Tel : 0297-72-1348

メール samotaki@yaoo.co.ne.jp

× ボランティアネットワーク「ウナロムプロジェクト」

〒302-0005 茨城県取手市東5-2-33

Tel : 0297-73-7512 (代表/大滝)

【文責：茨城県立取手第一高等学校 大滝 修／作成：2014年3月】

☆ キーワード（地球市民・学びの協同・子どもの社会参画）

<1> ねらい

- ① 高校生が問題の発見・調査・企画・実行・表現（「社会参画」）し、「踏み出す勇氣」を高める。
- ② 県内の大学・高校・職場のつながりを活かし、参加の輪を広め、参加感を高める。
- ③ 高校生の活動を通じ、（海外）被災地と地域が互いに理解を深め支え合う仕組みを生み出す。

<2> 学びの特徴

- * クリスマス・クッキーとリースを販売するチャリティバザー「フィリピンにクリスマスを」開催。
- * 水戸生涯学習センター「ネットワークフォーラム」でメンバーが体験発表し、県内の高性とネットワークが生まれる。
- * 顧問のフィリピン現地訪問に合わせ、支援物資の寄付を呼びかけ、校内・県内高校から多品種・多数の寄贈を受ける。
- * 卒業式に、卒業生に体育着・靴の寄付を呼びかけ、段ボール9箱分の協力が得られた。



<3> 成果・効果

- 1 「フィリピンの子どもたちに役に立てた」という喜びが高校生たちを力づけました。進んでアイデアを提案し、行動した結果、協力をかってでる人の輪広がり、高校生の大きな自信につながった。
- 2 活動を通じて、世界の実情や自分とのつながりを発見し、実践的な社会学習の機会となった。
- 3 フィリピンの子どものつながりをきっかけに、東北被災地にも目を向けようという声生まれ、新たな課題を発見と提案へとつながっている。

<4> 今後の課題

- * ランチ・クラブから、地球市民としての活動を担う同好会・部活動へと高校生の集いを育む。
- * 現地でフィリピンの子どもと出会い、学び合うスタディツアーの実現を検討する。
- * 高校生の地球市民活動をバックアップする校内組織を立ち上げ・地域団体と連携を図る。

<5> 担当者からのメッセージ

ハワイ出身のALTとのランチでイドバタ会議の中で、高校生は巨大台風見舞われたフィリピンの子どもに、災害被災地という共通の「痛み」を感じました。「フィリピンの子どもたちを元気づけたい」という思いと、だれでも参加できる身近なボランティアの提案は多くの方の共感と協力をいただき、多くの笑顔が生まれました。

初めは、A社の支援品の受け入れ先を巨大台風被災地に見つけることが目的でした

巨大台風に苦しむ子どもたちに何ができる？

【参加者の声】

「フィリピンの人たちとつながれた気がしました」「こんなに沢山の人の関心を持ってもらっていると感じ、頑張ったかいがありました」「募金活動をして、ありがとうと笑顔があふれていました。金額の多少ではなくて心の重みだと思います。少しでもフィリピンの方の支えになれるなら幸いです」

Nフォーラムに参加したSさんが、二高バスケット部顧問に相談し、ボールの寄付を申し出てくれました。心から感謝します。



「日本人をこの町で見るのは初めてです。ありがとうございます」
(校長先生)

【龍ヶ崎一高生の声】

「竜一もフィリピン支援に協力して支援をしてみたい」「フィリピンに行ってみたい。誰かの為に行動し、自分を変えたい」

◇フィリピン支援 はじまりから明日へ◇

◇2013年

- 11月25日 はじめの一步！
常磐大学教授より、A社が「フィリピンの巨大台風被災地へ自社の靴製品を送りたい」ので、受け入れ先がないか依頼を受ける。
- 12月3日 Idobata「クリスマスチャリティ」を企画
リース・クッキー販売・募金を企画する。
- 12月11日 B社Mさんが仲介を申し出。
在日フィリピン人Sさんの母教会・学校が支援品を仲介し受け入れると連絡がある。
- 12月17日 チャリティバザー
「クリスマスをフィリピンに」開催。即完売。

◇2014年

- 1月5日 顧問はMさん・A社担当者と、フィリピンに靴を届ける現地訪問を計画
 - 1月23日 現地教会より、レイテ島タクロバン市の学校10校が流され、千人分のノート・ペンなど教具・遊具が必要との連絡がある。
 - 1月24日 Idobata、活動報告のため壁新聞作成。
 - 1月25日 水戸生涯学習センター・Nフォーラム代表2名が県内高校生へ活動を報告する。
*ボランティアネット「ウナロムプロジェクト」を通じ、勝田高校サッカー部がボールを提供。
*水戸二高バスケット部からボールを寄贈
 - 1月28～30日 寄贈されたボールを洗う。
 - 2月1日 Mさんを講師に、「フィリピン講座」
 - 2月8～11日 顧問・Mさんらフィリピン訪問
被害状況視察し、3校に支援品を届ける。
 - 2月17日～ フィリピン視察報告の写真展。
 - 2月20日 顧問が龍ヶ崎一高で講演・写真展
 - 2月26日 Idobata「卒業生へ体育館靴・体育着の寄付をポスターで呼びかける。
 - 3月1日 「卒業式」ボランティア
* ダンボール9箱分の靴・体育服が集まる。
- ⑧ その後の提言
- * 「文通するAさんの仮設住宅（仙台）を訪問するツアーをしたい」（Oさん）
 - * 「定期的にチャリティをした」（全員）
 - * 「フィリピンで子どもに会いたい」（Y・Tさん）

志民の学び縁卓会議からのコメント

- ☆ 海外支援を現地の人々との顔の見える関係を丁寧に築きながら進めている点が大切ですね。
- ☆ 活動したことを報告・発信し、異なる学校の生徒たちがネットワークを構築しているのはいいですね。
- ☆ きっかけを生かして活動の可能性をひろげていく大滝先生のコーディネートは素晴らしいと思います。

No. 4

地域で福祉の心をはぐくむ子どもヘルパー事業

～ 子どものころから福祉と接する機会の提供をとおして ～

実施団体

守谷市社会福祉協議会高野支部 × 高野地区地域福祉活動計画ネットワークグループ

〒302-0116 茨城県守谷市大柏954-3

Tel: 0297-45-0088 守谷市社会福祉協議会内（事務局）

メール：shakyo.moriya.954-3@ace.ocn.ne.jp

【文責：守谷市社会福祉協議会 小林友勝／作成：2014年3月】

☆ キーワード（地域・世代間交代・きずな）

<1> ねらい

- 1 少子高齢化や核家族が進む中での世代間の交流による「地域の絆づくり」
- 2 地域のさまざまな人々との交流による「地域の支え合いづくり」
- 3 子どものころから地域との交流による「地域の顔見知りづくり」

<2> 学びの特徴

- * 主に地元施設職員が行っている紙芝居による「出前認知症講座」を受講し、高齢者に対する理解を図った。
- * 主に4年生対象の事業であるが、5・6年生がリーダーとなり、後輩たちをサポートしながら活動した。
- * 地域の様々な支援を得ながら、事業を行ってきた。

（敬老会）



<3> 成果・効果

- 1 サロンや高齢者宅訪問、地域行事等への参加により、子どもたちを見守る地域の方の意識が高まった。
- 2 子どもたちは、地域の大人や高齢者、障がい児など、さまざまな人々と接し、活動することで自信が生まれ積極的に活動する様子が見られるようになってきた。
- 3 子どもたちが事業に参加することで、保護者もさまざまな場面に関わる機会を得ることができ、新たな交流も生まれてきた。



（高齢者宅）

<4> 今後の課題

- * 子どもヘルパーは、土日や長期休業中の活動で、基本的には学区内での活動を中心に行っていたが、一部学区外、塾やスポーツ少年団などの活動と重なり、全活動に参加できない子どもたちもおり、集合場所や活動場所までの送迎など、保護者の負担が感じられた。
- * 4年生から6年生まで継続的に活動する子どもヘルパーもいたので、新たに参加する子どもと互いに教えあいながら活動する様子が見られた。今後は、子どもたちが継続活動していくための受け皿や中学生になっても活動できる場の構築、各小学校において福祉教育の一環として、毎年同学年の継続活動や委員会・クラブ活動などでの取り組みなどを模索していく必要がある
- * 高野支部社協がモデル地区活動のため、社協職員が連絡・調整や資料作成等を行い実施したが、今後の継続や市内に活動を拡大するには、いかに地域力で実施していくかが大きな課題となる。

<5> 活動収支

〔収入〕	8,400円（参加費）	〔支出〕	80,000円（エプロン代）
	130,000円（社協支部活動助成金）		68,400円（消耗品費他）
	計138,400円		計138,400円

<6> 担当者からのメッセージ

22年度に県モデル事業として始まり、24年度から市単独事業として継続。学校での福祉学習を基に、子どもや保護者も活動を通じて地域と交流の輪が広がり、様々な人と接することで多くの笑顔が見られた。地域の事業への理解が深まり、多くの方々の支援もいただき、「来年も！」の声も聞かれるようになった。

子どもヘルパー保護者：子どもから、ヘルパーをやりたいと話があったが、どれだけお役にたてるか不安です！

子どもヘルパー：自分たちで出来ることで、どうすれば高齢者の方が喜んでいただけるか？考えました

施設職員：入所者や利用者の皆さんと楽しく交流して下さいました。毎年訪問や交流は楽しみなので、また来てください

《参加者の声・感想》
 ①子どもヘルパー
 学校で「福祉」について勉強し、子どもヘルパーの募集を見て、お母さんに「やってみよう！」と話しました。おじいちゃんやおばあちゃんといろいろな話やゲームをして楽しかった。手を握って「また来てね！」と言ってくれたので、来年も子どもヘルパーをやりたいです。
 ②子どもヘルパーの保護者
 祖父母と同居してないので、子どもがどこまでできるか不安もありましたが、友達と一緒に楽しく活動できたようです。どれだけお役に立てたか分かりませんが、いろいろな方とさまざまな場所で経験したことが、少なからず本人の自信になったように感じています。

特別支援学校PTA役員：地域の方と接するのが苦手な子どもたちもおり、子どもヘルパーのお手伝いをいただけるのはありがたい。保護者の協力もあり、障がい児理解のきっかけになったと思います。今後も活動継続を期待しています

連携団体 や キーパーソン
 学校、高齢者、高齢者施設、出前サロン、地区民生委員、高野まちづくりの会、自治会長、保護者
 守谷市社協高野支部・高野地区福祉活動計画NG

◇子どもヘルパーの内容◇	
4月中旬	支部役員・ネットワーク委員等事業内容検討。地区内小学校（2校）の協力を得て、参加者募集（申込み：42名）
7月28日	任命式・出前認知症講座（30名）
8月	夏休み：手話を交えた歌の練習 地区内サロンや高齢者施設訪問・交流（11ヶ所：40名）
9月14日	守谷市敬老会で手話ソングの披露とボランティア活動（35名）
10月19日	高野ふれあい健康ウォーキング大会への参加（27名）
10月26日	健康スポーツフェスティバルでのボランティア活動(台風の影響で中止)
11月16日	県南生涯学習センター主催「障がいって、こころがつくるのかな？」 中村勇先生（茨城県立医療大学作業療法学科）講座（19名）
12月15日	障がい児父母の会クリスマス会（32名）
1月11日	伊奈特別支援学校交流事業「ふれあいボランティアスクール」へ参加（32名）
1月12日	高野地区あわんとりへ参加(35名)
2月22日 23日	地区内の独り暮らし・高齢者世帯への訪問（8件：33名）
3月2日	修了式（38名）

子どもヘルパー：来年もリーダーとして絶対に参加したい！

支部役員：子どもたちと一緒に活動でき、高齢者の笑顔が見られてよかった

志民の学び縁卓会議からのコメント
 ☆ 学校と地域、社協が連携し合い、さまざまな子どもヘルパーの事業を行っているのはすばらしいですね。
 ☆ 子どもと保護者、社協職員、支部役員等と一緒に活動することは、地域福祉の模範といえますね
 ☆ 市民がたくさん集まる行事などでも、積極的に子どもヘルパー事業のPRや称賛ができるといいですね。

◆分野：福祉 ◆対象：小学生・高齢者 ◆実施主体：社協・小学校・民生委員・児童委員・地域包括支援センター・V等

No.5

おみたま子どもヘルパー派遣事業

～やさしさいっぱいの小美玉市を目指して～

実施団体

社会福祉法人 小美玉市社会福祉協議会

〒311-3436 茨城県小美玉市上玉里1122
(小美玉市玉里保健福祉センター内)
Tel:0299-37-1551 FAX:0299-37-1552

【文責：小美玉市社会福祉協議会 飯田絵里香 /作成：2014年3月】

☆ キーワード (子どもの思いやりの心を育む・高齢者の生きがいづくり・ボランティア活動の日常化)

<1> ねらい

- ① 子ども達と高齢者の世代間交流を通じた絆づくり
- ② 子ども達の福祉の心を育む
- ③ 高齢者の地域・社会からの孤立防止
- ④ 地域みんなで支え合うまちづくりの推進

<2> 学びの特徴

小学生をおみたま子どもヘルパーに任命

*【学ぶ】学習会

高齢者に関わる事前学習を行う。

*【触れ合う】訪問活動・交流活動

高齢者宅や高齢者施設を訪問し、楽しみながら高齢者への関心を高める。

*【元気を届ける】

高齢者へ絵手紙やクリスマスカード、年賀状等を贈る。

<3> 成果・効果

- 1 学校で学べない事を勉強できた。
- 2 近所の高齢者と子ども達の距離が近くなった。
- 3 高齢者への関心が高まった。
- 4 日頃の声かけが自然に身についた。
- 5 高齢者の生きがい、孤立防止に繋がった。

<4> 今後の課題

- * 地域の子ども達が、日常生活の中で高齢者を気にかけて、思いやりを持って接していけるような仕組みづくりや中学生対象の地域介護ヘルパー養成へ繋がるよう検討していく。

<5> 活動収支

〔収入〕 17,340円(善意銀行) 197,493(共同募金)	〔支出〕 53,130円(消耗品) 134,716円(被服費)
29,098円(社協会費)	27,288円(通信費) 28,797円(給食費)
計243,931円	計243,931円



<6> 担当者からのメッセージ

この事業は、子ども達の福祉の心(思いやり)を育むと共に高齢者の生きがいや生活の質の向上に繋がっています。子どもヘルパーの活動(体験)をきっかけに、地域の中で世代を超えた絆が深まり、住民同士が支えあう『やさしさいっぱいの小美玉市』を目指していきたいと思っています。

《グループ分けと高齢者決め》
 応募してきた子ども達の住所を見て、近所同士2～3人のグループに分ける。
 グループ毎に近くに住む高齢者の中から訪問を受け入れてくれる方をピックアップする。

《任命式は・・・》
 各校の全校集会等で行うことで、活動に対する意識付けとなった。また、他の生徒への周知効果も見られた。

・ 交流する目的や自分達がヘルパーとして何をしてあげられるかを話し合う時間を設けた。
 ・ 子ども達の訪問活動の次なるステップになった。

《子ども達の感想》

- 高齢者の皆さんの喜ぶ顔を見ることができて、これからも何かしてあげたいと思った。(Aさん)
- 高齢者に対するイメージが変わった。気軽に話せるようになった。(B君)
- 訪問活動がとても楽しいからぜひみんなにもやってほしい。(C君)

連携団体 や キーパーソン

- 市内小学校教諭 ○市民生委員
- 市地域包括支援センター職員

◇準備からふりかえりまで◇

実施について
 平成22年～23年
 県からモデル地域として選定を受け、実施
 平成24年～
 小美玉市社会福祉協議会で共同募金配分金事業の一環として実施

準備

- 実施要項の作成
- 関係者との打合
 各校の校長先生、民生委員、地域包括支援センター、ボランティア等と調整
- 「子どもヘルパーの手引き」「年間スケジュール表」「募集ちらし」作成
- 各校を通して募集

実施内容

- ①任命式（任命書の交付）
- ②学習会
 - ・ 講話「子どもヘルパーの心構え」「高齢者と楽しく過ごす方法」
 - ・ とっさの時の応急手当・簡単クッキング・高齢者疑似体験
 - ・ 高齢者向けゲーム体験・絵手紙の上手な書き方
 - ・ 認知症サポーター養成講座（小学生向け）
- ③訪問活動協力者（引率者）との顔合わせ会
- ④交流活動
 - ・ 高齢者ふれあい給食会・福祉施設・配食サービス
 - ・ 90歳以上のサロン・高齢者を招待したクリスマス会
 - ・ ふれあい・いきいきサロン
- ⑤訪問活動
 - ・ 夏休みと冬休み期間中に高齢者宅訪問
- ⑥お便り活動
 - ・ 絵手紙・クリスマスカード・年賀状・配食サービスのかけ紙
- ⑦声かけ活動（あいさつ）
- ⑧子どもヘルパーのつどい
 - ・ 活動報告まとめと発表、意見交換会
 - ・ 「子どもヘルパーのあれこれ」ワールドカフェ方式の意見交換
 - ・ これから子どもヘルパーになるみんなへメッセージ
- ⑨感謝状授与
 - ・ 子ども達の感想、保護者アンケート回収

「子どもヘルパーの手引き」を使用

No.6

思いを伝える「元気っ子あそび会」でふるさと思い出づくり

～安心して暮らせる地域交流密着ボランティア活動～

実施団体

社会福祉法人 城里町社会福祉協議会

×

子育て支援ボランティア2010会

〒311-4303 東茨城郡城里町石塚1428-1
城里町常北保健福祉センター内
Tel:029-288-7013 FAX:029-288-7021
メール syakyou@shirosato-syakyo.com

代表 住 谷 里 子
(連絡先) 城里町社会福祉協議会

【文責：子育て支援ボランティア2010会 住谷里子／作成：2014年3月】

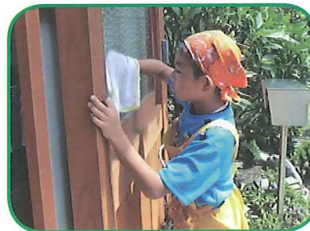
☆ キーワード（地域ボランティアで子ども・高齢者に元気を！）

<1> ねらい

- ① 子ども達の遊び仲間づくり・場づくりの設定で工夫を目指す
- ② 体験・伝統行事からの思い出づくりのあそび会を目指す
- ③ 地域高齢者とのふれあいで子どもヘルパーのサポートを目指す

<2> 学びの特徴

- * 学校では出来ない地域体験型のあそび会で思い出づくり
- * 地域サロンや世代を越えたふれあいで思い出づくり
- * 子どもヘルパー事業で高齢者の理解と交流で思い出づくり



<3> 成果・効果

- 1 子ども達は高齢者との積極的な交流で高齢者に学び畏敬の念が芽生え、たくさんのふるさと思い出づくりができた。
- 2 高齢者は子ども達に伝える立場を自覚し、思い出の再現となり満足した笑顔になり元気になった。
- 3 2010会員は子ども達と高齢者の立場を理解し、支援の範囲と子どもの成長の見守りができる研修の場となった。

<4> 今後の課題

- * 子ども達と高齢者の出番づくりや内容を工夫した交流の場づくり
- * 継続的な地域交流と交流地域の拡大
- * 学校や社協との連携を図り、地域ボランティア組織として支援活動の充実

<5> 活動収支

〔収入〕 24,000円（城里町ボランティア助成金） 〔支出〕 24,000円（事業材料費）
計 24,000円 計 24,000円

<6> 担当者からのメッセージ

地域高齢者との交流では、高齢者が長年培ってきた知識・経験の伝承の場とすることで、生きがいを感じ、相互の交流が深まったように感じる。今後もより強い「地域の絆」づくりの推進に取り組んでいきたい。

地域子ども会がなくなったあ～
 ・子ども達の姿が見えない!!
 ・遊びのふるさとの思い出がなくなるう～
 ・孫達にふるさとの思い出づくりをさせたい
 ・遊び場をつくろう!
 地域交流・体験型のあそび会作戦だあ!

もちつき大会をやって地域を元気にしよう
 自宅庭の開放・家族で準備
 はんどちゃんからの支援

子ども達にいろいろな体験をさせたい
 ・高齢者の交流で昔の生活を教えてもらおう
 ・地域行事職や地産食を食べさせたい
 ・ボランティア組織を立ち上げよう

ならせ餅をかざったよ!
 芋串・麦飯とろろ・すいとん・かまど炊き
 ごはん・飯ごう炊爨の味はなつかしかった。
 ボランティア2010会の誕生

受け身の交流から積極的に高齢者と関わり
 をもたせたい
 ・高齢者宅を訪問して話し相手をしよう
 ・高齢者にお手紙やプレゼントをあげよう
 ・子どもヘルパー事業の計画やサポートを
 しよう

2010会の活動が充実した!
 ・主婦、僧侶、元教員、住谷家の家族で組
 織し継続活動
 ・もちつき大会 ⇒ 「ならせ餅」 ⇒
 「草もち・柏もちづくり」になったよ
 季節の味わい体験だ

◆高齢者との交流地域を拡大したい!
 ◆子どもヘルパー事業のサポート及び社協
 主催の介護予防事業にも2010会は支
 援していきたい!

◇福祉教育 準備からふりかえりまで◇

◆H19～20 はんどちゃんネットワーク事業
 「元気っ子あそび会」
 <対 象>地域の幼、中、高校生
 地域高齢者サロンなかさん会
 <内 容>もちつき大会、月例あそび会、地域
 防災探検、お散歩会、高齢者と交流
 <支援者>地域支援者・社協男塾生・高校生会

*世代を超えた交流と体験の充実
 *地域伝統の伝達とボランティア員の整理

◆H20～22 元気っ子あそび会・
 サロンなかさん会交流
 <対 象>地域の幼、中、高校生
 地域高齢者サロンなかさん会
 <内 容>もちつき大会、飯ごう炊爨、すいと
 んづくり、戦争体験を聴く会、今昔
 ファッションショー
 <支援者>ボランティア2010会員

*高齢者の体験を伝える場づくりの充実
 *子ども達は高齢者に学び郷土愛が向上
 *2010会員がファッションショーモデル

◆H23～25 子どもヘルパー事業での交流
 <対 象>地域の幼小中学生、子どもヘルパー
 <内 容>独居・日中独居高齢者との交流、手
 紙、自宅訪問、もちつき大会
 <支援者>2010会、民生委員、社協

*子ども達の手紙と訪問で、高齢者が元気
 *2010会員のボランティア研修の場

【もちつき大会参加者の推移】会場：住谷宅

実施日	人数	実施日	人数
H20. 1/14	44名	H23. 1/10	84名
H21. 1/12	47名	H24. 1/9	122名
H22. 1/11	62名	H25. 4/29	76名

*4月の1年生おめでとうミニもちつき大
 会で鯉のぼりと一緒に大盛り上がり!
 *ボランティアも一緒に大盛り上がり

志民の学び縁卓会議メンバーからのコメント
 ☆ 大人たちが、地域の子供を「仲間」として受け入れ、共に育み、共に生きようという思いが伝わります。
 ☆ 助成金の活用や新たなつながりづくりなど「金・拠点・人」を上手に活用した活動の継続が魅力です。
 ☆ 「あそび会」のOB・OGが運営スタッフになってくれる仕組みを考えておくと、地域活動に根付きますね。

No. 7

水戸特別支援学校PTAボランティアスクール

～地域と連携したボランティア育成と肢体不自由児の理解啓発～

実施団体

茨城県立水戸特別支援学校

〒310-0845 茨城県水戸市吉沢町3979

Tel:029-247-5924

メール admin@mito-sd.ed.jp

【文責：茨城県立水戸特別支援学校 石井祐弥／作成：2014年3月】

☆ キーワード（ボランティア・地域）

<1> ねらい

- ① 学校・保護者が相互に連携・協力しながら、広く社会の人々と互いの理解を深める機会とする。
- ② 地域に根ざしたボランティアの育成に資する。

<2> 学びの特徴

学校、保護者が相互に連携・協力し、平成18年度よりボランティアスクールを実施している。

年間約5回の講座を設定し、講師を招いての講義や車いす体験、本校児童生徒と共にレクリエーションをしたり、校外活動に出かけたりする交流をとおして地域に根ざしたボランティアの育成、広く社会の人々と互いに理解を深める機会とすることを目指している。

ボランティアスクールの全日程の終了後、希望者には本校独自のボランティアサークル「ひまわり倶楽部」に登録をお願いし、登録者には、実際にボランティアスクールの運営や学校行事にボランティアとして参加していただいている。

<3> 成果・効果

- 1 ボランティアスクールをとおして、受講者と児童生徒がお互いに理解するきっかけとなっている。
- 2 ほとんどの受講者がボランティアスクール終了後も、障害者と積極的にかかわっていきたくて感想を述べている。
- 3 ボランティアスクール受講後に毎年数名の方が「ひまわり倶楽部」に登録しており、中には数年にわたって登録し、本校の活動にボランティアとして参加している方もいる。

<4> 今後の課題

- * 受講者は、学校がある水戸地区の方が多くなる傾向があり、本校児童生徒が居住するそれぞれの地域にボランティアを広めていく。
- * 関係機関との連携をさらに進めていく。
- * 参加している児童生徒、保護者からは、活動内容がマンネリ化しているという指摘もあるので、内容を工夫し魅力あるものとしていく

<5> 活動収支

- ・参加者については、特に経費はなし。
- ・講師謝金等については、PTA会費より支出

<6> 担当者からのメッセージ

本校ボランティアスクールは、開始して7年目になり、受講者も通算約300人になります。受講者だけでなく、参加する児童生徒、保護者、教員にとって大変有意義な活動となっています。



毎年高校、大学、社協等にボラスクの案内をしています。

今年度は、一般の方の他に水戸市の社協から紹介していただいた「水戸市サポーターの会」からも受講していただきました！

「街に出かけよう」では、毎年「水戸内原イオン」に出かけます。児童生徒、受講者ともに楽しみにしているイベントです。受講者にとっては、やっぱり座学より子どもたちとの触れ合いが一番のようです！

今年で2回目になる「水戸まちなかフェスティバル」の一部として実施している「タウンモビリティ in水戸」をボラスクの一環として位置づけて参加しました。様々な団体の方と交流することができ、大変有意義な体験となりました！

《参加者の声・感想》

- 最初は「自分が児童のサポートをする」という考えでいたが、いつの間にか自分が楽しんで児童と一緒に踊ったり歌ったりしていることに気付き、児童から得ているものを感じた。
- 障害のある子どもとどう関わればいいのか分からなかったが、目や表情を見て触れるだけでもコミュニケーションがとれると感じた。怖がらずに自分から関わっていくことが大切だと思った。

連携団体 や キーパーソン
 常磐大学 池田 幸也
 NPO生活支援ネットワークこもれび 榎田美紀子
 茨城NPOセンター・コモンズ 横田 能洋

- ◇ボランティアスクール実施からふりかえりまで◇
- 4月15日 PTA役員会・拡大役員会
平成25年度ボランティアスクール（以下ボラスク）実施計画協議
 - 4月22日 PTA総会
平成25年度ボラスク実施計画承認
 - ～6月18日 ボラスク参加者募集
 - 6月22日 第1回ボラスク実施
講義「学校概要・車いすの操作方法」
演習「仲良くなるう」～校内ウオクラリー大会
 - 7月1日 PTA役員会
第1回ボラスクの反省
第2回、第3回ボラスクの実施に向けて協議
 - 8月7日 第2回ボラスク実施
講義「ボランティア活動について」
常磐大学 池田先生
講義「発達障害・視覚障害・聴覚障害について」
 - 8月23日 第3回ボラスク実施
講義「障害のある子とのかかわり方」
こもれび 榎田先生
 - 演習「街にでかけよう」
 - 9月9日 PTA役員会
第3回ボラスクの反省
 - 10月7日 PTA役員会
第4回の実施に向けて協議
 - 10月28日 タウンモビリティ準備会議
タウンモビリティとボラスクのかかわり方について協議
 - 10月27日 第4回ボラスク実施
● 「タウンモビリティ in水戸」
 - 11月5日 PTA役員会
第4回ボラスクの反省と第5回ボラスクに向けての協議
 - 12月14日 第5回ボラスク実施
「みんなでチャチャチャ」「修了式」
 - 12月16日 PTA役員会議
第5回ボラスクの反省
 - 1月14日 PTA役員会
今年度のボラスクの反省
 - 2月24日 PTA役員会
平成26年度ボラスクについて協議

みんなで「音楽」で大盛り上がり！
 みんなでフォーチュンクッキーをおどりました！

志民の学び緑卓会議メンバーからのコメント

- ☆ 特別支援学校の先生と保護者が一緒になって企画・運営しているのは大切ですね。
- ☆ スクールの参加者と特別支援学校の生徒たちが交流を深めながら取り組んでいるのがいいですね。
- ☆ 講義だけでなく、実際にまちに出て一緒に体験しながら学ぶことができるスクールは魅力的ですね。

◆分野：福祉 ◆対象：中学生 ◆実施主体：中学校・社協

No.8

実社会で実践 礼儀・マナー 部活動単位で参加する 夏休みボランティア体験

～ きっかけは大人が作る福祉教育への入り口 ～
(社会福祉協議会「2013夏のボランティア体験」との協働事業)

実施団体

社会福祉法人那珂市社会福祉協議会

×

那珂市立第四中学校

〒319-2102 那珂市瓜連321
市役所瓜連支所分庁舎1階

Tel:029-229-0309 FAX:029-296-1002

Email shakyo@naka-shakyo.net

〒311-0105 那珂市菅谷2476

Tel:029-298-8767 FAX:029-295-7551

Email dai4-c@city.naka.lg.jp

【文責：那珂市立第四中学校 山野邊義紀／作成：2014年3月】

☆ キーワード (部活動・忙しい中学生・参加のきっかけ作り)

<1> ねらい

- ① 学生でもできる社会貢献があることを理解する
- ② 奉仕の精神と自己肯定感を高める
- ③ ボランティア活動のきっかけをつくる

<2> 学びの特徴

- * ボランティアをしてみたい中学生と受け入れたい団体との間に、社会福祉協議会が仲介し、中学生と社会福祉協議会の間を中学校が仲介する。
- * 自分が住んでいる身近な地域にある福祉施設の訪問は大変意義のある活動である。
- * 取り組みをメディアに取り上げてもらうことで、活動意欲の向上と、周囲への理解を深める。



<3> 成果・効果

- 1 部活動で忙しくも充実している、中学生の夏休み。その中の一日を使って、普段心がけている礼儀やマナーを実社会で実践する、絶好のチャンスであった。
- 2 地域の福祉施設に興味をもち、お年寄りへの接し方を学ぶことができる。
- 3 ボランティアに興味をもっても、具体的に何をすればいいか分からなかったが、この取り組みをきっかけに、身の回りにはたくさんの社会貢献できる場があり、中学生は地域で喜ばれる存在だということを認識できた。

<4> 今後の課題

- * ボランティア体験参加料の負担の軽減(弁当持参は当然だが、参加費徴収は負担に感じる)
- * きっかけを作ったあとの継続的な活動(受け入れ側の広報活動にもよる)
- * 日程調整の難しさ(部活動の予定は夏休み直前にならないと決定しない)

<5> 活動収支

〔収入〕 112,500円 (参加費)

⑤500円×225名)

計 112,500円

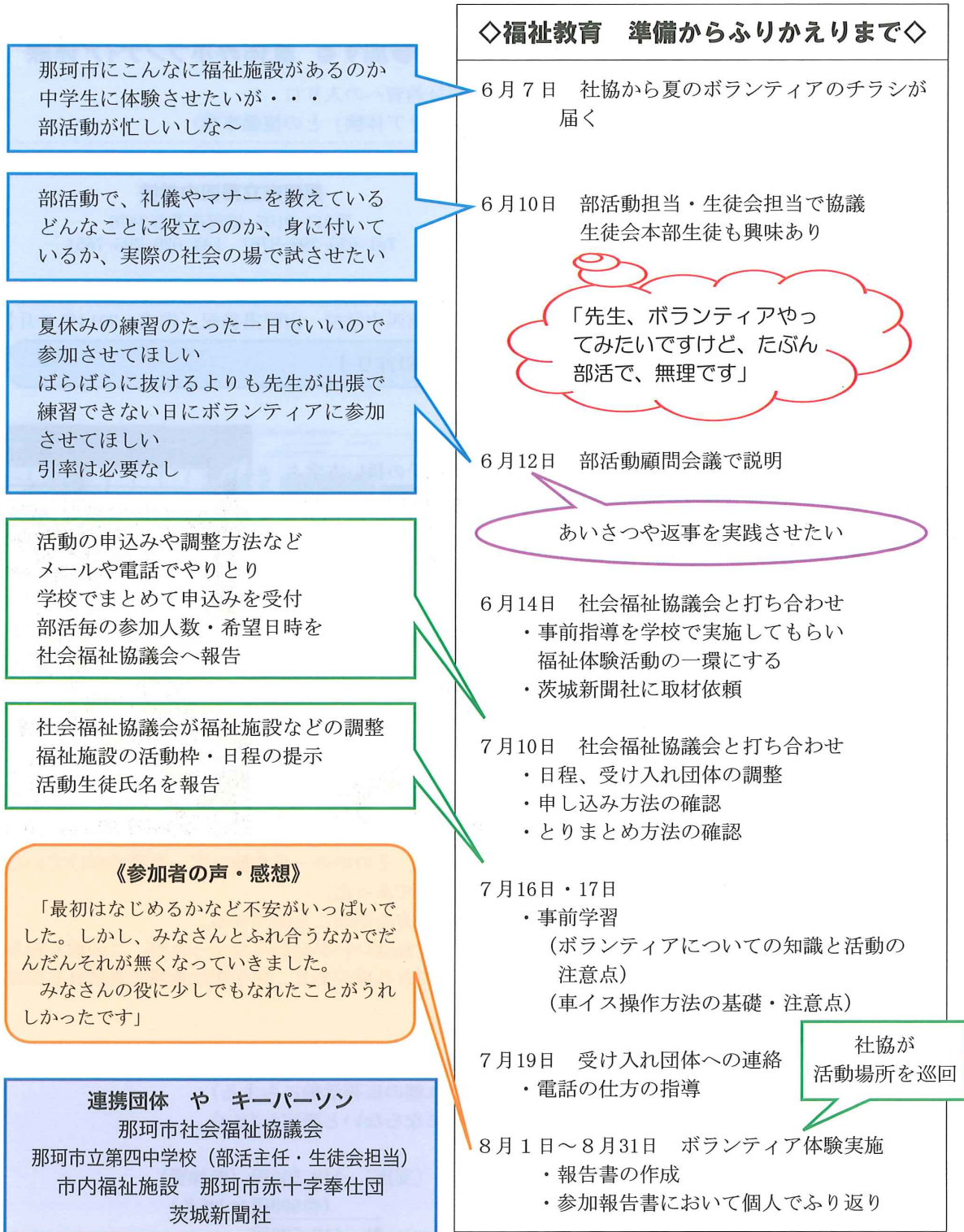
〔支出〕 112,500円 (参加費)

⑤500円×225名)

計 112,500円

<6> 担当者からのメッセージ

福祉教育は、学校現場だけでは疑似体験でしかありません。社会と学校現場をつなぐ橋渡しを社会福祉協議会が担ってくれています。中学生は何にでも挑戦したいと思っており、きっかけは教師や地域の大人の責任だと思います。



志民の学び縁卓会議メンバーからのコメント

☆総合的な学習・部活・体験活動を、組み合わせて効率的・効果的な活動展開がされています。

☆複数年（2年目）行うことで、年長者の役割を明確にするとともに、昨年の活動のふり返りにもなっています。

☆社協や、福祉施設、新聞社など、様々な社会資源を上手に活用していることが特徴的です。

◆分野：自然体験 ◆対象：小・中・高・青少年・住民・その他 ◆実施主体：VG・他

No. 9

森でイキイキ創造力アップ！

農作物収穫、火おこし体験、野外遊び、里山の風景など気づきや発見の連続です
元気いばらきっ子育成事業

実施団体

里山のたまり場 御前山

×

茨城県水戸生涯学習センター

〒311-4503 茨城県常陸大宮市野口3570-3

〒310-0011茨城県水戸市三の丸1-5-38

Tel：0295-55-3502

Tel：029-228-1313

メール tonose@sea.plala.or.jp

メール lifelong@mito.gakusyu.ibk.ed.jp

【文責：里山のたまり場御前山 小野瀬武康／作成：2014年3月】

☆ キーワード（生きる力・創造力アップ・心の安定）

<1> ねらい

- ① 昔の人々の暮らしの学習
- ② 農村社会の理解と農作業体験
- ③ 森の中で自然とのふれあい

これで本当に火がおきなの??



<2> 学びの特徴

- * 火おこしの歴史について学習すると共に、実際に火おこしの道具を用いて火おこしを体験することで昔の暮らしを理解する。
- * 食物（サツマイモ）の成長について学び、実際にサツマイモを収穫することで農作業を体験的に理解する。
- * ツリーハウスのある森で自然観察を行い、自然とふれあうことで環境のもつ大切さを自ら経験する。

<3> 成果・効果

- 1 火おこしの体験を通じて、昔の人々の暮らしに触れ体験的に学ぶことができた。
- 2 食物の成長を学び、収穫する喜びを共感できた。また、収穫後は子ども自らの遊びの創造からサツマイモのツルを使って縄跳びのひもを作り、広い畑の中で思い切り遊ぶことができた。
- 3 自然観察を通じて森の大切さ、自然環境の大切さ、また農山村の風景や暮らしの学習ができた。

<4> 今後の課題

- * 地元子ども達とのふれあいの場の設定について考える必要がある。
- * 指導員に地元の大人の参加を求める。
- * 一度の体験ではなく継続した体験を通じてより深く農山村の体験をして欲しい。

<5> 活動収支

〔収入〕	5,000円（参加費）	〔支出〕	5,000円（材料費、保険料）
	10,000円（県予算）		10,000円（講師謝金）
	計 15,000円		計 15,000円

<6> 担当者からのメッセージ

子ども達に自然の中で、あるいは広いところで思い切り遊ばせてあげることが大切ではないだろうか。その中から、優しさ、思いやり、感謝の心などを学び、豊かな人間としての成長が促されると思います。

子ども達に収穫の楽しさを体験できるしかけづくりをボランティアや指導員と話し合い、サツマイモの植え付けに決定。早速、準備にとりかかった。

そろそろ学校との調整も考えないと…
今年は何人の子ども達が来てくれるかな…



芋のツルって思ったより丈夫なんだね…

【参加した子どもたちの感想】
 Aくん：ふだんできない経験をたくさんできて楽しかった。
 Bさん：火おこし体験はなかなか火がつかなかったがおもしろかった。
 Cくん：さつまいものつるで、なわとびしたのが楽しかった。
 Dさん：自然の多いところで、のんびり遊べたのが楽しかった。
 Eさん：みんなと友達になれたし、体験が楽しかった。

連携団体 や キーパーソン
 里山のたまり場御前山 指導員
 茨城県水戸生涯学習センター 職員

◇福祉教育 準備からふりかえり◇

- 5月 サツマイモの準備
紅あずま及び干しいもの苗を植え付ける
- 7月 火おこし体験の準備
火おこし用具の点検整備、実験
- 8月 サツマイモの蔓返し作業
- 9月 参加者募集のチラシの配布
20人の子ども達の参加を見込んで、水戸市周辺の小学校を中心にチラシの配布
- 10月 30人を超える参加申し込みが届き、定員以上の受け入れが可能かどうか検討
→ 受け入れ人数を25名に拡大
それを踏まえて参加申込者に抽選を行い、今回の企画に参加する25名を決定した

【当日の活動プログラム】

- オリエンテーション
- 火おこしの歴史についてパワーポイントで説明
- 5班に別れて火おこし体験
- 昼食（野菜いっぱいの豚汁を提供）
- 芋掘り体験（サツマイモ2kgを持ち帰り）
- ツリーハウスの森で遊ぶ
- 反省会（蒸かしたサツマイモのおやつ）

芋掘りが終わった子ども達が、芋のツルを使って縄跳びを始めた時は驚きました。遊び道具がなくても子ども達は工夫をする。「子どもは遊びの天才である」という言葉を思い出した。子ども達の創造力アップに寄与できたことが嬉しかったです。

志民の学び縁卓会議メンバーからのコメント
 ☆ 教科書だけでは伝えきれない自然の大切さや昔の人々の暮らしなど、体験を通じて学ぶことができる場所も魅力です。
 ☆ 自然体験を通じて、子どもがもつ創造力が引き出され新たな遊びに展開しているところもいいですね。

◆分野：福祉◆対象：小学生 ◆実施主体：小学校

No.10

「あたたかいきもち」 知って、学んで、伝える学習

～私たちが伝えたい、思いやりの気持ち～

実施団体

那珂市社会福祉協議会	×	那珂市立菅谷小学校
〒 319-2102 那珂市瓜連 321		〒 319-2102 那珂市菅谷 2378 番地 1
TEL 029-229-0309/029-296-1002		TEL 029-298-0004/029-295-7552
メール syakyo@naka-shakyo.net		メール sugaya-s@city.naka.lg.jp

【文責：菅谷小 大塚真弓、那珂市社協 林紘平／作成：2017年3月】

☆ キーワード【総合的な学習・疑似体験・当事者交流・3年生に伝える会】

<1> ねらい

- 1 親子福祉体験や高齢者疑似体験等を通じ、家族や地域に身近に暮らす方を思いやる気持ちを育む
- 2 高齢者福祉施設の訪問で自らできることを考え、披露し、高齢者に喜んでもらう過程を通じて、相手を思いやる気持ちや自身の成長につなげる
- 3 年度を通じて学んできたことを下の学年に伝えることで、自らの振り返りをするとともに、学んできたことを人に伝えられる力へつなげる

<2> 学びの特徴

- * 那珂市社会福祉協議会、市内ボランティア団体などさまざまな方との交流を実施
- * 高齢者福祉施設の高齢者との交流体験
- * 自らの学びを下級生に伝える取り組み



<3> 成果・効果

- 1 児童が自ら考え、学び、活かす学習経験ができた
- 2 社会福祉協議会や近隣施設に小学校の取り組みを知ってもらい、協力してもらえる関係づくりができた
- 3 自らの学びを相手に伝えることで、年度を通じて学習してきたことを、次の学年に引き継ぐことができた

<4> 今後の課題

- * 総合的な学習の時間減少による交流体験等の時間を取ることの難しさ
- * 福祉施設などへの移動には、多くの教員の支援が必要である

<5> 活動収支

- ・必要な消耗品などは学校であるもので対応
- ・体験キットなどは、社会福祉協議会から借りて使用

<6> 担当者からのメッセージ（資料を見る方へのメッセージ・コメント）

教員だけでは、外部との調整の仕方がわからなかったり、体験学習における時間の回し方など効率的に進めづらいことがあります。そんな時、相談できる窓口があることは心強いです。また児童はさまざまな体験や経験をどんどん吸収し、自分のものにしていきます。その手助けとして、自らの学びを相手に伝える過程が必要だと感じています。

		◇福祉教育 準備からふりかえりまで◇	
<p>さまざまな体験が単発のものに終わらずに、「普段の生活」や「学習」として、活かせる取り組みにしていきたい。</p>		4月 1日	那珂市社会福祉協議会に相談
<ul style="list-style-type: none"> ・基本は電話・FAXでやり取り。 ・車いす、アイマスク等は社協で調整。 ・消耗品などは学校で準備。 <p>学校にて社会福祉協議会、ボランティア、担当教員で体験打ち合わせを実施。</p>		4月 5日	体験、年度計画の打ち合わせ
<p>社会福祉協議会が交流訪問の候補日を確認するとともに、施設と日程を調整。</p>		5月 6日	親子アイマスク・車いす体験 ボランティアと打ち合わせ
<p>児童は施設内の各ユニット（デイサービス、特別養護老人ホーム、小規模多機能型ホームなど）にグループごとに訪問。</p> <p>グループごとにリコーダーやマジック、手作りすごろくなど、交流し合うきっかけを持ちより高齢者とコミュニケーションを深めていた。</p>		6月 6日	親子福祉体験実施
		9月 7日	高齢者福祉施設と打ち合わせ
		9月 29日	高齢者疑似体験 ボランティアと打ち合わせ
		10月 24日	高齢者疑似体験
		11月 8日	施設へ交流訪問
<p>児童の声・感想</p> <p>4年生「うまく伝えられるか心配だったが、3年生が真剣に聞いてくれてよかった」</p> <p>3年生「目が不自由だと、階段などの段差でも心配なところがあるのがわかった。発表はとてもわかりやすかったです」</p>		2月 25日	社会福祉協議会から車イス・アイマスク、白杖、高齢者疑似体験キット借用
		2月 28日	3年生に披露する前のデモンストレーション
<p>連携団体 や キーパーソン 那珂市社会福祉協議会 市内高齢者福祉施設(社会福祉法人青燈会) 市内ボランティアサークル (那珂市赤十字奉仕団、ボランティアサークルトク)</p>		3月 2日	3年生に発表。
		<p>社会福祉協議会も様子を見守り。最後にちょっぴりアドバイス。</p>	

志民の学び縁卓会議メンバーからのコメント(すぐれているところ・活用へのヒントなど)
 ☆体験だけにとどめず、当事者との交流、成果を次の学年へと伝えるという、学びのピラミッドに沿った丁寧な学習が行われているのが特徴的です。それによって、学びが深まるとともに、次の学年への導入にもなるという効果的・効率的な学びになっているのが素晴らしいですね。

◆分野：福祉◆対象：義務教育学校・住民◆実施主体：義務教育学校・水戸市社協国田支部

No.11	
国田義務教育学校が取り組む地域協働事業・地域交流事業・地域貢献事業について	
～H26～H28 福祉教育協力学区指定事業の成果～	
事業実施主体	
国田義務教育学校	水戸市社会福祉協議会国田支部
〒311-4205 水戸市下国井町 2595-1	〒311-4205 水戸市下国井町 1212-4
電話 029-239-7118・239-7125	国田市民センター内
Email 710101@sch.ibk.ed.jp	電話・FAX 029-239-6568

【文責：水戸市社会福祉協議会 国田支部 園部武正／作成：2017年6月】

☆ キーワード [地域連携・地域協働・地域交流]

< 1 > 活動の目標

学校と地域社会が連携して、社会福祉に関する協働事業を実施することにより、子どもたちが地域の課題や社会福祉に関する理解や考え方について学ぶ福祉教育を推進する。

< 2 > 活動の特徴

- ① 地域社会が、年間を通して地域の中で子どもたちが生き生きと活動できる環境を整えることに努力している。
- ② 学校が、子どもたちの発案による地域貢献事業を積極的に進める体制が整っている。
- ③ 子どもたちを地域全体が見守り、ともに活動して子どもたちが地域の一員としての自覚が得られやすい環境にある。

< 3 > 事業の成果等

- ① 学校と地域との協働事業を進めることによって、従来にも増して地域の中の学校として、生徒も地域の一員であるという自覚がなお一層促進されたこと。
- ② 生徒が地域貢献事業について積極的に提案し、進んで実施しようとする自覚が大きく芽生えたこと。
- ③ 学校と地域の交流が一層進み、地域の人やお年寄りとの交流を通して福祉のこころをもって接する機運が一層促進されたこと。



< 地域協働事業 >

No.11 国田義務教育学校が取り組む地域協働事業・地域交流事業・地域貢献事業について

<4>福祉体験・協働事業に対する子どもたちの感想

- ① 総合的な学習の時間の「和太鼓の練習」に関する感想文

(国田義務教育学校3年 和田 翔太)

- ② 地域協働事業・地域交流事業の「田植え・収穫祭」に関する感想文

(国田義務教育学校6年 高安 好伸)

<5> 今後の課題

- ① 福祉教育協力学区指定事業により、従来にもまして醸成された学校と地域との「協働」の精神を、今後いかに持続させて学校運営や地域の行事を反映してゆくかということに十分配慮すること。
- ② 地域との協働事業については、一時的なものにとどめず福祉教育の観点から今後も積極的に取り組む必要があること。



<地域貢献事業>



<地域交流事業>

<6>担当者からのメッセージ (資料を見る方へのメッセージ・コメント)

事業推進のポイントとして、学校と地域役員との綿密な調整、準備が重要であると感じました。

志民の学び縁卓会議メンバーからのコメント(すぐれているところ・活用へのヒントなど)

- ☆ 子どもたちの発想を生かして地域貢献体験を実施しているところがいいですね。
- ☆ 地域方々と学校の先生方をつないでいる社協支部の役割を学びたいと思います。